

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）
研究センター対象国際研究集会等開催支援 研究報告書

※本学 HP での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：国際研究集会等開催支援

【所属】：人文科学研究科

【氏名】：西山雄二

【氏名フリガナ】：ニシヤマユウジ

【職】：教授

【国際研究集会等の概要（イベント概要が分かる資料を添付）】

*複数開催した場合は、そのすべてについて記載すること。

① 「人間と人間ならざるもののあいだ：ドミニク・レステル」

2025 年 5 月 24 日(土) 15:00～19:00 立教大学 池袋キャンパス 12 号館地下 1 階 第 1、2 会議室

ディスカッサント：櫻田裕紀(早稲田大学)、清水雄大(獨協大学ほか)、馬目悠太郎（立教大学）、八木悠允（ロレーヌ大学）、若杉茜（東京大学）

司会：渡名喜庸哲、西山雄二

主催：立教大学人文研究センター、科研費基盤研究 C(24K03345) (研究代表者：渡名喜庸哲)

共催：東京都立大学 「「あわい」の比較文化研究リサーチコア」

② フレデリック・アイ＝トゥアティ講演会

「ノンヒューマンの劇場：人間と非人間が舞台の上で出会う時」

2025 年 6 月 2 日(月) 18:00 - 20:00 | 東京都立大学南大沢キャンパス 1 号館 110 教室

参加無料・予約不要 ※使用言語：フランス語（通訳付）・日本語

講演者：フレデリック・アイ＝トゥアティ（科学史家、演出家） 通訳：平野暁人（翻訳家）

司会：西山雄二（東京都立大学）

コメント：越智雄磨（東京都立大学）、清水さやか（東京都立大学）

主催：JSPS 科研費 22K13018 「パリ・オペラ座バレエにおける『民主化』の動向」（研究代表者：越智雄磨）

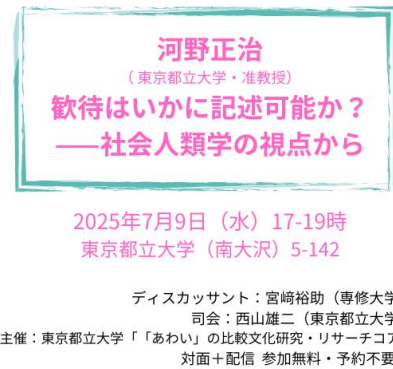
協力：東京日仏学院、東京都立大学 「「あわい」の比較文化研究・リサーチコア」

③ 河野正治「歓待はいかに記述可能か？—社会人類学の視点から」

2025 年 7 月 9 日（水）17-19 時 東京都立大学（南大沢）

ディスカッサント：宮崎裕助（専修大学） 司会：西山雄二（東京都立大学）

主催：東京都立大学 「「あわい」の比較文化研究・リサーチコア」



④ ジュリー・ペラン（パリ第8大学教授）連続講演

1) ダンスを構成する：操作と実践のボキャブラリー

Composer en danse : Un vocabulaire des opérations et des pratiques

2025年10月21日（火）18時30分-20時30分 室伏鴻アーカイブカフェ Shy

司会：越智雄磨（東京都立大学）

2) 海辺のコレオグラフィ：陸と海のあわいで踊る身体

Chorégraphies de littoral : danser pour l'eau ou le rivage

2025年10月29日（水）18-20時 東京都立大学南大沢キャンパス5号館1階142教室

司会：西山雄二（東京都立大学）

主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア

※使用言語：フランス語（通訳付き）・日本語

⑤ トリスタン・ガルシア『〈私たち〉とは何か』合評会

2025年12月19日（金）17-19時 東京都立大学（南大沢）5-504

コメント：ファヨル入江容子、黒木秀房、八木悠允

応答：関大聡、福島亮 司会：西山雄二

主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア 対面＋配信

⑥ 講演「われわれ」のあわい——木村敏とデリダ

日時：2026年1月28日（水）17-19時 場所：東京都立大学 5-504 教室 対面のみ

講演：ダリン・テネフ コメント：大杉重男 司会：西山雄二

主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア

東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア主催
ジュリー・ペラン連続講演
 Cycle de conférences de Julie Perrin

参加無料・予約不要
 ※使用言語：フランス語（通訳付き）・日本語

① ダンスを構成する：操作と実践のボキャブラリー
 Composer en danse :
 Un vocabulaire des opérations et des pratiques
 2025年10月21日(火)18時30分～20時30分
 室伏鴻アーカイブカフェShy
 司会：越智雄磨(東京都立大学准教授、舞台芸術研究、身体論)

② 海辺のコレオグラフィ：陸と海のあわいで踊る身体
 Chorégraphies de littoral :
 danser pour l'eau ou le rivage
 2025年10月29日(水)18時～20時
 東京都立大学南大沢キャンパス5号館1階142教室
 司会：西山雄二(東京都立大学教授、20世紀フランス思想、文学)

講演者：ジュリー・ペラン(Julie Perrin)
 パリ第8大学教授。
 2005年にパリ第8大学で美学・振付研究の博士号を取得（論文「身体空間から公共空間へ」）。2019年にはリール大学で教授資格審査（HDR）を通過。研究テーマは、場に根ざした振付、空間性、身体と振付の関係など。これまでフランス大学研究院（IUF）やスイス・ジュネーブの研究所IRMASでの共同研究に参加。
 著書に「Figures de l'attention. Cinq essais sur la spatialité en danse」（Les presses du réel, 2012）、共編著「Composer en danse. Un vocabulaire des opérations et des pratiques」（Les presses du réel, 2019）など。

『私たち』とは何か
 トリスタン・ガルシア
 評者：伊藤雄一、福島亮
 監修：トリス・ガルシア

トリスタン・ガルシア
『〈私たち〉とは何か』
合評会
2025年12月19日（金）17-19時
東京都立大学（南大沢）5-504

コメント：ファヨル入江君子、黒木秀房、八木悠亮
 応答：関大聡、福島亮 司会：西山雄二
 主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア
 対面＋配信 参加無料・予約不要

⑦「見ることと暴力のあわい——ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『開かれたイメージ』（第8章のバタイユ論）を読む」

日時：2026年1月30日（金）17-19時 場所：東京都立大学 5-504 教室 対面＋配信

発表：黒木秀房（東京都立大学）

コメント：ダリン・テネフ（ブルガリア・ソフィア大学）、細田一益（本学研究員）

司会：西山雄二（本学）

主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア、科研費「ポスト構造主義哲学における「表象」の再検討——ドゥルーズを中心として」（JP24K15930）

ダリン・テネフ
 「われわれ」のあわい
 木村敏とデリダ

2026年1月28日（水）
 16:30-18:30
 東京都立大学（南大沢）
 5号館 5階 504教室
 講演者：ダリン・テネフ
 （ブルガリア・ソフィア大学）
 司会：西山雄二
 コメント：大杉重男
 主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア

見ることと暴力のあわい
 ——ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『開かれたイメージ』（第8章のバタイユ論）を読む

2026年1月30日（金）17時～19時
 東京都立大学（南大沢）5-504教室
 対面＋配信（QRコードから要登録）

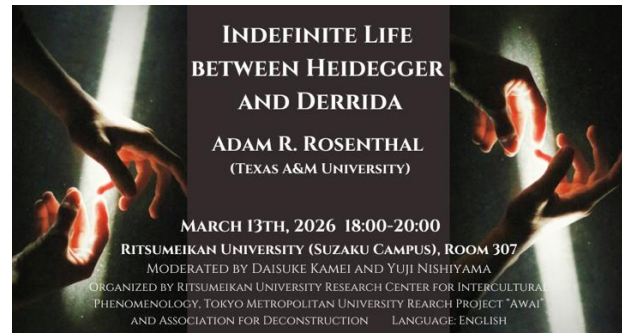
発表：黒木秀房 司会：西山雄二
 コメント：ダリン・テネフ、細田一益

主催：東京都立大学「あわい」の比較文化研究・リサーチコア、
 科研費若手研究（24K15930）「ポスト構造主義哲学における「表象」
 の再検討——ドゥルーズを中心として」

⑧ジャック・デリダ講義録（1989-1990年）「他者を食べる——友愛のポリティックス」を読む

日時：2026年1月31日（土）17-19時 場所：東京都立大学 5-504 教室 対面＋配信

発表：西山雄二 コメント：ダリン・テネフ、櫻田裕紀



⑨ The Gift of Life and Death

Discussion with Adam R. Rosenthal (Texas A&M University)

March 11th, 2026 14:00-17:00 Tokyo Metropolitan University (Minami-Osawa) Bldg. 5, Room 142

Chihiro Kainuma "The Question of Economy and the Originary Throw"

Takeru Ishiraha "Don't Know If I Don't Know: Secret in Translation"

Hiroki Nakatani "Cyber Derrida, or Deconstruction in the Digital Epoch"

Tomohiro Matsuda "Reading, selection, autobiography: Derrida's seminar as resistance"

Satoru Yoshimatsu "What Does It Mean to Love Finitude?"

Moderated by Yuji Nishiyama and Yusuke Miyazaki

Organized by Tokyo Metropolitan University Research Project "Awai" and Association for Deconstruction

Language: English

⑩ Indefinite Life between Heidegger and Derrida

Adam R. Rosenthal (Texas A&M University)

March 13th, 2026 18:00-20:00 Ritsumeikan University (Suzaku Campus)

Moderated by Daisuke Kamei and Yuji Nishiyama

Organized by Ritsumeikan University, Tokyo Metropolitan University Research Project "Awai" and Association for Deconstruction

【招聘した外国人研究者（イベント概要が分かる資料を添付）】

フレデリック・アイ＝トゥアティ（科学史家、演出家）

ジュリー・ペラン（パリ第8大学教授）

ダリン・テネフ（ブルガリア・ソフィア大学）

Adam R. Rosenthal (Texas A&M University)

【報告（実施後の成果）】

① 「人間と人間ならざるもののあいだ：ドミニク・レステル」

参加者総数 40 名（内、海外研究者数 1 名）

レステルの講演「哲学的動物行動学、ポストヒューマン、サイエンス・フィクション」は、人間と動物の境界線を問い、ポストヒューマンの思索を示す彼の最新研究の成果であった。公開討論では若手研究

者 5 名がレステル氏に質疑をおこなった。

② フレデリック・アイ＝トゥアティ講演会

参加者総数 30 名（内、海外研究者数 2 名）

アイ＝トゥアティ氏による非人間的なものの上演の実践が紹介され、その思想的射程が論じられた。

③ 河野正治「歓待はいかに記述可能か？—社会人類学の視点から」

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 1 名）

人類学と哲学の知見から、歓待の構造と実践が講じられた。

④ ジュリー・ペラン（パリ第 8 大学教授）連続講演

1) ダンスを構成する：操作と実践のボキャブラリー

参加者総数 30 名（内、海外研究者数 1 名）

2) 海辺のコレオグラフィ：陸と海のあわいで踊る身体

参加者総数 30 名（内、海外研究者数 4 名）

「ダンスを構成する——操作と実践のボキャブラリー」では、芸術実践の現場から紡ぎ出された語彙と理論をもとに、ダンスの構成論理が提示される。「海辺のコレオグラフィ——陸と海のあわいで踊る身体」では、私たちが提示した「あわい」という日本文化的な概念を踏まえた上で、身体・空間・物質・他者が相互に関係し合う「あわい」における「生成のプロセス」という視座から舞踊表現が再考された。

⑤ トリスタン・ガルシア『〈私たち〉とは何か』合評会

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 0 名）

ガルシアは伝統的な共同体論の枠には収まらない形で、〈私たち〉の多層性を緻密に分析し、21 世紀に生きる私たちの理論的足場を提供してくれている点を議論した。

⑥ 講演「「われわれ」のあわい——木村敏とデリダ」

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 1 名）

木村敏とデリダを軸にして、自己と他者の現象学的共同体論が講じられた。

⑦ 「見ることと暴力のあわい——ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『開かれたイメージ』（第 8 章のバタイユ論）を読む」

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 1 名）

ユベルマン『開かれたイメージ』（第 8 章のバタイユ論）をめぐって、視覚と暴力の関係が論じられた。

⑧ ジャック・デリダ講義録（1989-1990 年）「他者を食べる——友愛のポリティックス」を読む

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 1 名）

「他者を食べる」ことをめぐって、その具象的かつ比喩的な意味の広がり、哲学や文学、精神分析の知見とともに論じた。

⑨ The Gift of Life and Death

参加者総数 7 名（内、海外研究者数 1 名）

Adam R. Rosenthal 氏の研究をめぐって、5 名の若手研究者と議論した。

⑩ Indefinite Life between Heidegger and Derrida

参加者総数 10 名（内、海外研究者数 1 名）

ハイデガーとデリダの無際限な生をめぐって、生物学の知見を援用しつつ論じられた。

上記のセミナーの記録はすべて、西山雄二研究室紀要 *Limitrophe*（リミトロフ）、第 9 号 特集＝「あ
わい」の思考、にて公刊された。<https://nishiyama.fpark.tmu.ac.jp/cn9/pg1053.html>